



●著者は半世紀にわたり「高麗茶碗」を研究・製作してきた現代韓国を代表する陶芸家の一人。井戸茶碗の起源や用途をめぐって、歴史的事実を無視した謬説が一定の支持を集める現状に危機感を抱いた著者は、自身の半生をかけた井戸茶碗研究の精華を本書に結集させました。

著者：趙 誠主（チョ・ソンジュ）

1949年の生まれ。韓国陶芸界の戦後第2世代の中心的陶芸家であり研究者。

延世大学を卒業後、一陶工として生きる道を選択。韓国の伝統陶磁器の製作・研究に明け暮れる。茶碗や茶入、水指などは日本でも高く評価され、80年代から東京をはじめとする諸都市で展示会を重ねてきた。

研究熱心な姿勢と誠実な人柄は多くの関係者の共感を呼び、1987年には、韓国人陶芸家として初めて、京都の大徳寺孤蓬庵に伝わる国宝「喜左衛門井戸」茶碗を直接手に取り、関する機会を許された。この井戸茶碗とは、1991年にも再び対面を果たしている。

◎天下の名碗、井戸茶碗の謎——
日本では国宝ともなった茶碗の王者は、原産地・朝鮮ではどんな器だったのか？その製作時期、場所、用途など、多角的なアプローチから謎の名碗の真実に迫る。発掘調査の科学的解析と資料研究、土と炎を熟知した韓国人陶芸家の経験が導く、知られざる真実の数々。
いま、ようやくにして、井戸茶碗はここまで明らかに！

訳者：多胡吉郎（たご きちろう）

作家。1956年東京生まれ。1980年、NHKに入局。ディレクター、プロデューサーとして多くの番組を手がける。2002年、ロンドン勤務を最後に独立、英国に留まり文筆の道に入る。2009年、日本に帰国。
【著書】『生命の詩人・尹東柱』（影書房）、『韓の国の家族』（淡交社）他。

注文書

*書店様記入欄 [取次番線・コード印]

井戸茶碗の真実——いま明かされる日韓陶芸史最大のミステリー

趙誠主 著 / 多胡吉郎 訳 ISBN : 978-4-87714-483-8 定価2,500円+税

お客様
氏名：

電話
番号：

ご住所：〒

【ご担当名：】

影書房 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-3-15 TEL:03-6902-2645 FAX:03-6902-2646 <http://www.kageshobo.com>

※ご注文の際は、上にお名前・ご住所・電話番号・ご注文冊数をご記入の上、お近くの書店へお持ち下さい。

チヨ・ソンジュ
趙誠主 著 / 多胡吉郎 訳

四六判並製 200頁
定価2500円+税

井戸茶碗の真実

いま明かされる

日韓陶芸史最大のミステリー

訳者による現地訪問記
「井戸茶碗の故郷を訪ねて」
付き。

2019年
8月下旬刊

趙誠主著／多胡吉郎訳

井戸茶碗の真実

いま明かされる

日韓陶芸史最大のミステリー

【主要目次】

◎訳者によるプロローグ

ここまで来た、実証主義が導く

井戸茶碗の謎の解明

*

序章 現代韓国と井戸茶碗

第1章 井戸茶碗の製作時期

第2章 井戸茶碗の製作地

第3章 井戸茶碗の用途

第4章 井戸茶碗Ⅱ 祭器説の問題点

I 高台など形態から考える

II 儒教風習から考える

III 井戸茶碗の約束から考える

第5章 井戸茶碗とは何だったのか

*

◎訳者によるエピローグ

井戸茶碗の故郷を訪ねて

熊川陶窯址訪問記



ISBN : 978-4-87714-483-8

四六判並製 197 頁

定価2,500円+税

本書を読む私たちが覚えるのは、井戸茶碗のルーツ解明がここまで来たという驚きであり、知的興奮である。

(訳者によるプロローグより)

千利休ら茶人はもとより、豊臣秀吉を始めとする戦国武将たちを魅了し、日本の国宝にまでなった井戸茶碗。だが日本に渡ってくる前、朝鮮での正体については謎に包まれてきた。

500年の時を超え、いま蘇る井戸茶碗の真実。

☆発掘調査が語る、熊川陶窯址こそが井戸茶碗の故郷と考えられる根拠。

☆梅花皮、轆轤目など、特徴的な姿ぶりは、どうして生まれたのか？

☆当時の朝鮮人の器観はどうだったのか？ なぜ井戸茶碗は韓国から出土しないのか？

☆井戸茶碗Ⅱ祭器説は、茶碗の頂点に立つ現在の位相から推測し、当時の朝鮮社会の現実を無視した暴論。

☆著者は半世紀にわたり「高麗茶碗」を製作してきた韓国陶芸界を代表するひとり。国宝「喜左衛門井戸」茶碗を、韓国人陶芸家として初めて手に取り開いた人でもある。半生をかけた井戸茶碗研究の精華がここに結集。